



郵便
報知新聞
第八百十四号

加賀国十四大區小區小川町の辺ふ日
蓮宗の一愚僧あり生来放蕩般若と
上旨とせし方便品の塵語八部酒と女の功
力より蓮華の鼻の陥落せし檀家の不
與いふも更なる異名と鼻高上人と稱せし
近郷金石ころの村里に豪家あり人の子息
今年十九才あり醫術を學び醫藥の功驗
非ざるに神社佛寺へ祈禱せしも更なる快
氣に至らざるより彼上人に加持せし法
力神速なりしと或の進むるを其意ふ
任せ頼むに上人恭敬承引て護りて焚
立善椒と煙く烈敷誦經けられ病者を
忽ち逆上せし鼻高上人の得る顔と舌
此より早生体顕せし持たず殊敷みてあつて均く
病者の怒り起上人と蹴倒踏飛し奈狂病と
衰症さへし邪欲の賣僧の所業と是凡夫の
迷心を生ぜしん欺の敷も亦恐るべし



南金町十四番地
月岡米次郎画
小舟町三丁目
七番地熊今庄七

